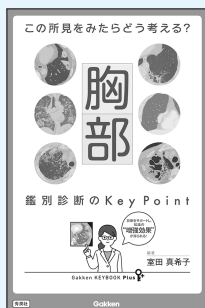


Gakken KEYBOOK Plus

この所見をみたらどう考える？ 胸部 鑑別診断のKey Point

編著：室田真希子（香川大学医学部放射線医学講座）



発行：Gakken

2025年9月刊行

B5判・264ページ

本体：6,600円＋税10%

（定価 6,930円）

鑑別診断とは、実診療における放射線科医の仕事そのものといえます。特に、呼吸器の画像診断では、第一に考えられる疾患を挙げるだけでなく、内科・臨床検査・病理で鑑別されるべき疾患を、鑑別診断としてきちんと押さえて読影することが多くの場合に要求され、一発診断は一部に留まります。可能性が低くても挙げておかななくてはならない疾患もあります。『Gamuts in Radiology』初版（1975年）の編者にFelson先生がおられるのは偶然ではありません。

本書は、胸部の鑑別診断について、肺病変として①結節・腫瘍、②すりガラス影・網状影、③粒状影、④リンパ路性間質分布を示す病変、⑤嚢胞・びまん性吸収値低下、⑥気管支や血管の異常、⑦コンソリデーション、⑧縦隔病変の鑑別の仕方についての8項目

で、分担執筆がなされています。さらに、切り口を変えて、⑨臨床所見との組み合わせから考える、⑩単純X線写真／CTのサインという実際の読影で診断の絞り込みに役に立つ2章が加わり、10章の内容から成ります。これだけ内容が詳しいにもかかわらず、264ページとたいへんコンパクトに収まっている点は、編者の努力と適切な執筆者選択がうかがわれます。あまりに分厚い教科書が本棚の飾りになりがちな筆者としては、画像が大きいのに薄くて内容の濃い本書は持ち運び容易で、読み通すのが楽しい本でした。

各章の内容はいずれも充実していますが、特に「粒状影」の項目は圧巻で、執筆者の該博な経験と考察がうかがわれる鑑別フローチャートは必見といえます。項目の重なる「リンパ路性間質分布を示す病変」と併せて、実に教育的で実臨床で使える内容です。編者自ら担当する「コンソリデーション」も、付随所見に着目した鑑別リストが詳細ですばらしい内容です。通読した後は、各章の鑑別診断リストがとても使いやすいです。

初心者が最初に読む本ではありませんが、ある程度の知識をつけた後に呼吸器の診断力を深めるために読み通すべき教科書として、第一選択になると思います。中・上級者の方には、知識復習と各所にちりばめられた深い知見の取得のために、通読しやすい本書を強く推薦します。

虎の門病院放射線診断科

負門克典